

今から100年前。香川の行商人一行が千葉の農村

を廻っていたところ、朝鮮人と誤解

され、9人が殺害

された。生残者は

故郷の被差別部落

に戻るが、体験し

た恐怖をどう説明

していいのかわか

らない。加害者の

村人たちは軽い懲役刑を受

けたが、大正天皇の逝去で

波 小 波 大

恩赦。中にはその後、村長

になった者もいる。これが

1923年9月、野田に近

い村落で起きた虐殺事件で

ある。

から、全国で順次公開され

ている。大企業の映画会社

ではどうして実現しない企

画であり、よくぞ撮ったも

のだと心意気を感じる。

震災時虐殺の映画

オウム真理教のドキュメ

ンタリーを撮り続けた森達

也が、この事件を『福田村

事件』として映画化。関東

大震災100年の9月1日

だが出来はイマイチ。脚

本が荒いのだ。行商人たち

が殺害される直前、前年に

作成された「水平社宣言」

を全員で朗唱したり、反差

別的正義感に満ちた女性記

者が八面六臂の大活躍をし

たり、登場人物が観念的に

操作される人形を超えてい

ない。主題の重厚さという

点では、国民党政権下での

台湾人虐殺を描いた、侯孝

賢の『悲情城市』に匹敵す

る物語である。それゆえ、

もう少し丁寧に撮られるべ

きであった。貴重な映画の

試みであるため、惜しいの

一言に尽きる。(角丸)